

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個別最適な学びによる基礎的・基本的な知識・技能を定着させる指導の実践
- 協働的な学びを取り入れた子供の思考力・判断力・表現力を育む授業改善
- 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る指導の工夫

横瀬小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭・国語主任 新田 彩乃	委員 校長 教頭 教諭 教務主任 教諭 研修主任 教諭 特別支援コーディネーター	石田 早人 古田 哲也 笠松 京子 沖野 有結 岩野佳那子
-----------------------------	--	---

校長

石田 早人

【小中連携または中高連携における共通の取組】

○読書活動の推進と国語力向上を目指した図書館との連携

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や各教員による自己評価を毎月行い、学期末に報告することで、取組状況を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能については身につけている児童が多い。 ●長文に対し苦手意識のある児童が多く、長文を最後まで読み取ったり、書かれてある内容を理解したりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な漢字の読み書きや四則計算などが確実ができる。 ・タブレットPCを活用して自分に合った学習をすることができる。 ・長文を最後まで読み、その内容を的確に捉えることができる。	・朝の国算タイムに全学年でドリル学習を取り組み、基礎・基本の学力を身につけさせる。 ・GIGAタイムを継続し、タブレットの学習履歴を指導に活用する。 ・初読の長文を読解する機会を継続し、長文に対する苦手意識の軽減を図る。 ・重要な部分、問題提起の部分、まとめの部分等が読み分けできるようアンダーラインや囲みをしたり、相互関係を整理してまとめさせたりする。	・国算タイムを継続し、初読の長文問題を読み、読解力をつける。 ・GIGAタイムを継続し、基礎・基本学力の定着を図る。 ・並行読書をしたり教科書に出てきた作品と類似した作品を教室に掲示したりすることにより、読書力向上に役立てる。	・概ねできたが、一部できていない児童もいた。個別支援を継続する。 ・達成することができた。 ・効果は多少みられたが、十分達成できたとは言えない。	・月に1回読書タイムを用いて、新聞を読読機会を作り、感想を書く時間をとる。 ・学力向上CDや、読書のプリントを活用したり、並行読書を行ったりする回数を増やす。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○自分で考えたことを自分なりの言葉を使い、相手に伝えようとしている児童が多い。 ●自分の思いや考えを、筋道立てて表現することが苦手な児童が多い。	・自分の思いや考えを、理由や根拠を明確にして、筋道を立てて表現できる。 ・目的に応じてタブレットを活用し、自分の考えを文にして表現できる。	・比較したり言い換えたりするような深い学びに繋がる質問を工夫したり、思考ツールを活用したりする。 ・グループ学習やペア学習で自由に自分の言葉で話せる機会を設ける。 ・ホワイトボードや協働学習支援アプリ等を用いて他者の意見を取り入れる場面の設定をする。 ・タブレットを使って書いた文章を発表し合ったり、協働学習支援アプリで読み合ったりさせる。	・説明の筋道の例を挙げて、児童が説明できるように、カッコ抜きで考えさせる。 ・自己解決の時間、練り上げの時間を毎時設定し、学びを深める。 ・伝える方法を選べるようにし、文章を発表し合ったり、読み合ったりさせる。	・筋道立てて表現しようとする習慣ができてくるが個人差が大きい。発表の仕方を支援することにより、自分の考えを伝えようとする意識が高まった。 ・協働学習支援アプリを使用し、自分の考えを伝えたり、他者の意見を聞いたりすることができた。	・よりしっかりと理由や根拠が言えるよう指導方法の工夫が必要。 ・前時までの学習や、日常経験を振り返り、児童の実態を把握し、学びの力を深めさせる。 ・タブレットについては、これからも効果的な場面で活用していく。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○宿題などの与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。 ○指示された学習や手順の分かる学習には根気よく取り組むことができる。 ●応用課題や発展課題などに主体的に取り組むことに課題がある。 ●家庭で読書をしている割合が低い。	・自ら課題に気づき、解決することができる。 ・各教科の応用・発展課題に主体的に取り組むことができる。 ・家庭学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・教科書に関連した本を読み、学習を深めることができる。	・学習のめあてや単元のゴールを明確にすることで、児童が見通しをもって学習させ、次時に繋がるような振り返りの時間を確保する。 ・体験や交流を多く取り入れた活動を設定し、児童自ら課題に気づき解決できるように支援する。 ・家庭学習チェックカードのコメント欄を利用し、児童や保護者に家庭学習の意欲づけをする。 ・積極的にタブレットを活用し、子どもたちが主体的に学習に取り組む意欲を高める。 ・教科書に関連した書物を教室に置き、読書タイムなどの時間に並行読書を奨励する。	・学習のめあてを児童たちに立たせ、学習の見通しをもたせるようにする。 ・家庭学習チェック週間中に、教師の評価も加え、児童の意欲を高める。また、一週間の振り返りができる記入欄を作成し、児童の意欲向上に繋げる。 ・タブレットの活用については、児童に問題の解き方を共通理解させた上で、学習に取り組ませる。	・学習の流れを提示し、見通しをもたせることができた。 ・各教科の応用・発展課題に主体的に取り組ませるためにも、まだまだ教師の支援が必要である。 ・家庭学習チェックカードに児童の意欲向上に繋がるコメントをすることができた。 ・おススメの本コーナーを作って並行読書の意欲づけを行った。	・児童の発達段階と単元に合わせためあてを立てるようになる。 ・下学年の家庭学習チェックカードにも、児童自らめあてを立てる欄や先生のコメント欄を作成する。 ・並行読書については、適宜、本の選書などをしながら、継続して取り組んでいく。

令和5年度 学力向上ロードマップ

